

スリナム月間情勢報告 (2019年2月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- ジャージー中央銀行総裁が辞任したことは、報道ではボータッセ大統領による解任と報じられ、その後ギルモア財務大臣が同総裁による不正を示唆（同総裁は否定）したことから、国会でも取り上げられた。同総裁辞任後、スリナムドルは下落が続いた。
- 仏領ギアナとの国境付近で、スリナム側は仏憲兵隊がスリナム領土で実力行使を行ったとして、両国の合同警察監視は中止された。

2. 内政

- 5日付現地紙は、中国旧正月祝賀夕食会に出席したアディーン副大統領は、政府は中国人社会のために50ヘクタールの土地を提供すると述べたと報道。
- 19日付現地紙は、国会はジャージー中央銀行総裁辞任に関し、政府からの説明を求めたと報道。

3. 経済

- 6日、スリナム訪問中のプラサド・インド輸出入銀行代表は、ウーフダド財務大臣と会談し、排水ポンプ19基設置のための1,500万米ドルの融資に合意したと報道。
- 11～15日、WTO貿易政策審査チームがスリナムを訪問し、貿易産業省との協議が行われた。（14日付報道）
- 12日付現地紙は、ジャージー中央銀行総裁は、ボータッセ大統領及びギルモア財務大臣と会談した後、辞任を申し出たと報道。その後、同総裁は大統領により解任されたと報じられ、スリナムドルは下落を続け、昨年来の米ドル流通不足はまだ続く見込みと報じられる。21日現地紙は、ギルモア大臣は、ジャージー総裁辞任の背景には同総裁による不正行為があったと述べたが、ジャージー総裁はそれを強く否定したと報道。
- 15日、世銀はスリナムの洪水リスク管理プロジェクトに対して、3,500万ドルの支援を決定し、これによりパラマリボ拡大圏の脆弱地域の住民約35万人が裨益する。（同日付報道）
- 27日、パラマリボ市内の小学校に有機栽培施設を建設するための草の根無償（83,990米ドル）の契約書がスリナム廃棄物管理財団との間で署名さ

れた。

● 28日、政府は辞任したジャージー中央銀行総裁の後任に、3月1日付でファン・トリクト氏を新総裁に任命すると発表した。

4. 外交

● 2日付現地紙は、スリナム訪問中のキューバの保健副大臣がエリアス保健大臣に対して、ワニカ病院に1ヶ月以内に25人の医師を送ることを約束したと報道。

● 5日付現地紙は、駐スリナム仏大使は、1月にスリナム当局が2,200キロのコカインを押収したことを歓迎し、薬物対策の分野で協力を強化すると述べたと報道。

● 12日付現地紙は、アルバ、キュラソー及びセントマーティンの議会議長がスリナムを訪問した、スリナムは地位が変更されたこれら諸島との関係構築、経済的協力の実施を望んでいると報道。

● 26～27日、セントキッツで開催された第30回カリコム首脳会合にポータッセ大統領の代理としてポラック＝ビゲリ外務大臣が出席した。

● 27日、仏領ギニアとの国境付近で、仏憲兵隊がマロワイネ川付近で、違法な金採掘を行っていた者に実力行使し、建物を破壊、放火したことに対して、スリナム政府は合同警察監視を中断すると発表した。(現地紙報道)

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。